

秋吉台 厳しい冬を耐え抜く姿！

寒暖の気温差が10度以上もある日があり、体調がそれに追いつけず整わないこともあるのではないのでしょうか。秋吉台も暖かい日や大雨ではないものの小雨にぐずついた日がありました。晴れた日は羊のように見える石灰岩が、雨に濡れると黒い子牛の群のようです。ススキやネザサもすっかり茶褐色に変わり、静寂です。これから厳しい冬を耐え抜くのだという思いが伝わってくるようです。



花も実もある秋吉台

スイカズラ つる性の低木です。花の蜜が甘いので、子供たちがそれを吸って遊んだことによる名前です。花が白色から黄色へと変化することからキンギンカ(金銀花)とも、また葉が冬でも寒さに耐えることからニンドウ(忍冬)とも。果実は5mmほどの艶のある黒色です。

ヤドリギ エノキに多く寄生する植物です。エノキが落葉すると常緑のヤドリギが目立ちます。果実には粘りがあり、これを食べた野鳥が粘り気のある糞といっしょに種子を排出し、それが木の枝に付着して発芽します。

クチナシ 花には甘い香があります。これが好まれて庭木として植えられます。秋になるとオレンジ色の果実を付け、乾燥させたものは着色料などとして利用されます。



学習会「クリスマスリース作り」(12月10日)

「クリスマスリース作り」を行いました。アケビなどのツルを巻いたリングにマツボックリやサルトリイバラの実などいろいろな自然の材料を使って、ていねいに飾り付けました。グルーガンで接着したり針金やテープで巻きつけたりと工夫をこらしました。銀色の材料で統一した落ち着いた感じのものやカラフルでかわいいリースが出来上がりました。



ビワ(枇杷)

石灰岩地帯によく自生する常緑高木です。改良品種は果樹として栽培されています。葉は枝先に集まって付き、裏面には綿毛が密生しています。花は芳香のある白い花を枝先にまとまって咲かせます。果実は翌年の初夏に食べ頃となりますが、自生種はやや酸味があります。また果実酒にも利用されます。



門松 新年を迎える

新年を迎えるために、大正洞のアーチの下に門松を建てました。竹は地元の方から分けていただき、その他の材料も分けてもらったり職員が持ち寄ったりしました。土台は半切したドラム缶を利用して外側に菰を巻き、中に小石を詰めて3本の竹を固定しました。その隙間に水を入れた竹筒を差し込んで松、竹、梅、南天、葉ボタンなどを活けました。



1月の行事

- 1月14日(日) 観察会「サンショウウオの観察」
サンショウウオの産卵のようすを観察しましょう。
- 1月20日(土) 観察会「冬の昆虫教室(クワガタムシ)」
- 1月28日(日) 観察会「冬の昆虫教室(カブトムシ)」
越冬中の昆虫観察とそれぞれクワガタムシ、カブトムシの育て方を学びましょう。